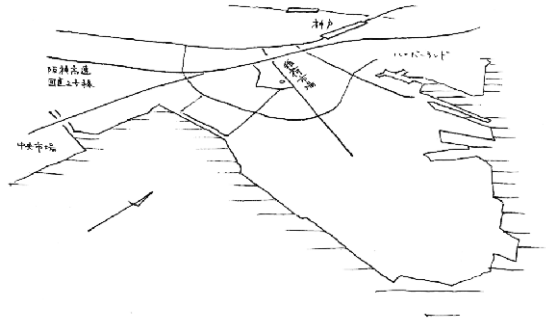
まちのレシピ その3

まちをつくるには建築だけではありません。コミュニケーションも大切な要素のひとつ。
今回は、工事を始める前に必要な「下ごしらえ」の様子をご紹介しましょう。
文・写真＝赤松麻衣　もしもし広報担当

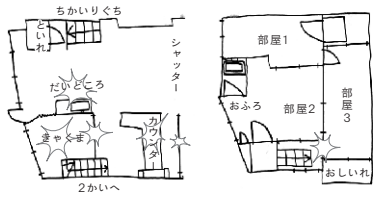


1 今回のお題

下ごしらえのはじめ方

住みコミュニケーションプロジェクト

2 解体したところ



1F 韓国料理店舗　　2F 店主住居

必要のない壁や床の解体と、台所の撤去を始めました。トンカチで叩いたり、バールを使って壊していきます。空間が広がり、今までと違った間取りになりました。

3 作業のながれ

置き去りにされた荷物の整理をし、次にいらない壁などを撤去する解体作業に入ります。壁を壊すと、中に組まれていたたくさんの廃材が出てきました。これらを利用しようと、使えるかそうでないかを分別。使えそうな廃材は、補強の下地材として再利用しました。

以前、韓国料理店だった『チカちゃんハウス』。解体と同時に、焼肉の油で汚れた壁のふき掃除もしました。部屋の四隅の油汚れは特にひどく、家庭用洗剤では太刀打ちできませんでした。洗剤でとれないところはヤスリをかけて、さらに磨いていきました。

4 今月の逸材

『とんかつ鈴屋』の近藤利光さん・松香さんご夫妻。奥さんはおいしいお味噌汁を差し入れしてくれました。『もしもし』は鈴屋さんの空揚げが大好物です。

5 お手伝い

解体作業は『もしもし』だけで行われたわけではありません。「住みん所さん（住みコミ物件の近所に住む人）」の、『とんかつ鈴屋』を営む近藤利光さんは、解体工事のアドバイスやお手伝いをしてくれました。また、工具の提供と安全な使い方も教わりました。

近藤さんの趣味は日曜大工。自宅に工房があります。工具についての知識が豊富で、まるで工具博士のようです。私たちのどんな質問にも、優しく答えてくれました。

工事が進むにつれて、まちの人たちと一緒になって作業をする機会が増えていきます。

6 一階のようす

調理台の脚がコンクリートに埋まっているため、容易に動かすことができませんでした。脚を切り、埋まった部分をバールで掘り出して、やっと撤去できました。

7 二階のようす

まず壁紙はがしから始まりました。少しずつしかはがせない箇所が多く、壁と向き合う耐久レースです。ひと部屋の壁紙だけでゴミ袋7つ分にもなりました。

8 廃材の山

解体が進むと、現場は廃材と土嚢の山でいっぱいになりました。ゴミの多くは腐っていて使えない木材ばかり。大きな車でもあふれるくらいの量があります。

9 まちの人々

工事を始めて1週間。まちの人々が現場にやってきて、差し入れを持ってきてくれるようになりました。「住みん所さん」の差し入れはさまざま。かしわ餅、ホルモン焼き、お味噌汁、お好み焼き、フルーツなど、ほかにもたくさんあります。おいしい差し入れが力になり、解体作業も順調に進んでいきました。解体の終盤は、地震でひび割れているコンクリートを取り除いていきます。

これで下ごしらえは完了です。次回は、実際に作業を進める上で必要となる、工具や木材などの「材料」を集めていきます。

住みコミ物件04「天窓の家」の工事も進んでいます。「天窓の家」については［http://wwwsumicomi.com→住みコミ物件→天窓の家］を御覧ください。住みコミュニケーションプロジェクト事務局（もしもし代表・三宗匠）